

2010年1月

RLI 日本に於けるプログラム&セッション内容改編ご提案

RLI 日本委員会事務局担当 (D-2750) 中村孝

同 プログラム検討委員 (D-2750) 坪昭二

RLI 国際委員会委員長デビット・リネット 殿

RLI 日本支部委員長・南園義一 殿

同 副委員長・黒田正宏 殿

同 事務局長・川尻政輝 殿

同 カリキュラム検討参加委員殿

□ 目的

18 セッションとパートⅣを総合し、日本における最適のカリキュラムはどうあるべきかを考え、以下の改編案を提出致します。

□ 検討の要点

- ① 日本に於いては米山記念奨学事業を省く事は考えられない。
- ② 職業奉仕、倫理の問題を充分討論すべきである。
- ③ ロータリー財団、米山記念奨学事業をパートⅢに確認的に入れる。

□ まとめ

- ① リーダーシップの項目は5項目あるがパートⅢの「話術」の項目をパートⅣに移行しⅠ～Ⅱにある4項目を3項目に改編し各パートに配分した。
(「話術」の項は地区の自由裁量で、例えばパートⅠのオリエンテーションで講演方式で要点を話し、パートⅣでセッションとして取り上げて良いのではと思います。)
- ② パートⅢの「変化するロータリーと RLI の批評」については全て参加した修了者によって行われるべきと考えパートⅣに移行した。
- ③ パートⅡの「クラブの分析」についてはチェックリストの内容を若干省略し、また内容も若干改編した。ただ質問事項が100項目もあるので、参加者に評価表を事前に届け、記入を済ませ当日持参してもらう事とし討論の時間を充分使える様工夫した。(参加者に事前送付の必要あり)
- ④ より日本語的、手続要覧の文に沿った言葉を使用し、その他の内容は基本的には変えておりません。
- ⑤ パートⅣは実施地区により自由裁量で良いのではないかと考えますが、パートⅣの「プログラム概要」には例として挙げた項目です。
他に地区の問題、RI 理事会の最新決議事項等考えられます。

* このご提案は各所に変更事項がありますので以前のものはご注意下さい。

Rotary Leadership Institute (RLI) Part I

プログラム概要

分科会 (セッション)	セッションの課題と概要	DL・担当者
1	ロータリーに於けるリーダーシップ (Leadership/Characteristic/Goals)	
	* 目的: 奉仕団体に於けるリーダーシップとは何か。 個性的なクラブ造りのための目標設定と重要性について。	
2	クラブを超えたロータリー (Rotary Beyond the Club)	
	* 目的: ロータリーの基本コンセプト、奉仕団体としての目標は 何か。基本理念とロータリアンの責務について。	
3	会員組織と会員維持 (その1・基礎編) (Membership Retention)	
	* 目的: 会員維持と会員増強について。ロータリー会員数の推移と各地区の 現状を理解、併せて効果的な会員補充プログラムを考える。	
4	ロータリー財団 (その1・基礎編) (Rotary Foundation Part 1)	
	* 目的: ロータリー財団に関する基礎知識、教育的プログラムと 人道的補助金プログラムなど財団の重要性について。	
5	米山記念奨学事業 (その1・基礎編) (Special Program in Japan)	
	* 目的: 米山記念奨学事業のこれまでの経過、奨学事業の現状と重要性、 寄付金の使途、財政の推移について。	
6	ロータリーの効果的な奉仕プロジェクト (Service Projects)	
	* 目的: ロータリーに於ける奉仕プロジェクトの重要性、地域社会との交流と ニーズの把握、計画的なプロジェクト開発などについて。	

2010JA/P1S1

RLI Part I セッション1 「リーダーシップと目的」

(効果的なクラブ運営と目標設定)

「本セッションの目的」

優れたリーダーが、リーダーシップを発揮し、効果的なクラブ造りを可能にする為には、目標設定が欠かせないとの想定です。マンネリ化を防ぎ、クラブの全会員が共有する目的を持ち、目的達成の為の戦略を立て、成果が評価できるシステムの導入が必要となります。ここでは効果的なクラブ運営に欠かせない目標管理の是非を討議します。

出来れば、事前に「効果的はクラブとは何か」をスタディして討議に臨みましょう。

「主な質問事項」

1. ロータリーは、原則、単年度制ですが、クラブに「長期ビジョン」がありますか？
それぞれの年間目標はどうでしょうか。
2. 当該年度の目標は、誰が設定しますか？ その設定までのステップはどうされていますか？
3. 設定された目標は、全ての会員に周知徹底されていますか？ 他の委員会目標との整合性は、充分取れていますか？
4. その目標は、前年度の目標にとらわれない「新鮮さ」、「クラブの個性」が発揮されていますか？ それとも、ロータリーは何処のクラブでも同じでしょうか？
5. 設定された目標の内容に、無理はありませんか？ 一般的には、設定された目標は「MACS」を満たす事が求められます。どうでしょうか？
M=Measurable (成果が測定できる事)
A=Achievable (目標が達成可能であること)
C=Challenging (挑戦的な目標設定であること)
S=Shared (参加者の間で目標を共有できること)
6. 目標は「個性的なクラブ造り」を推進する要因となっていますか？ 新会員候補者にとって、「入会したいクラブ・・・」でしょうか？ 新会員を招く、魅力的な要素が目的になっていますか？

R L I Part I セッション2 「クラブを超えたロータリー」

(クラブと地区、クラブとR Iの関係について)

「本セッションの目的」

国際ロータリーの組織規定が収録されている「手続要覧」の第1章には、「R Iは、R I定款および細則に従って結成され現に存在するロータリー・クラブによって構成される」と明記され、国際ロータリー定款第2条に「R Iは世界のロータリー・クラブの連合体である」と明記されています。このセッションでは、ロータリーとはどんな組織か、R Iの存在意義と役割、そして地区とクラブの関係、更には、ロータリーの停滞、後退を防ぎ、日々進歩するロータリーが、それぞれのクラブ、個々のロータリアン依存することについて討議します。

「主な質問事項」

1. 先ず冒頭に伺います。ひと言で云ってロータリーとは何でしょう？ あなたに、誰か尋ねましたか？ 答えは何でしたか？
2. ロータリーの目的とは何ですか？ 「綱領」を読みましたか？ 「四つのテスト」の意味をどう解釈していますか？
3. さて、国際ロータリー（R I）について伺います。R Iは何故必要なのでしょう？ 地区の存在についてはどうですか？ クラブ単独ではいけませんか？
4. R Iはクラブの自治権を侵していますか？ 個々のロータリークラブは、R Iの定める定款、細則に従って結成されています。問題がありますか？
5. 個々のクラブにとって、R Iの存在、地区の存在とは何でしょうか？ 組織的に見てR Iの位置（構成）は？ 地区の存在は？ ガバナーの役目は何でしょうか？
6. 地区の役割はクラブ支援です。どうしたら必要な支援が得られますか？
7. ロータリーは絶えず変化をしています。代表的な情報は、3年ごとに刷新されるロータリー手続要覧、更にはウェブサイトを参照して下さい。ご覧になったことがありますか？

(注) このセッションでは、「ロータリー財団」、「R Iプログラム」については、別のセッションで扱うものとします。従って、これらについては言及を致しません。

RLI Part I セッション3 「会員組織と会員維持」

(会員維持と会員増強、効果的な会員補充プログラム)

「本セッションの目的」

会員増強、会員維持（退会防止）の問題は、個々のクラブの問題のみならず、現在ではロータリー全体の課題です。RI も、昨今の会員減少傾向は、ロータリーの存続問題として、会員の維持、強化拡大に取り組んでいますが、この課題に容易な解決案がない事をご承知の通りです。クラブには個性があり、理想的な会員数についても、クラブごとに異なった考えあると思われれます。先ず、RI 全体の会員数、日本の会員数経過を検討、更には各地区ごとの会員数の推移と現状を理解、併せて効果的な会員補充プログラムを討議します。

「主な質問事項」

1. まず、参加者に、(自己紹介を兼ねて) 自分のクラブの会員数とその増減推移について伺います。ここ5年位の期間をみて、会員は増加していますか？横ばいと言う所はありますか？ 減少でしょうか？
2. では、その背景(原因)について伺います。会員数が減少傾向、又は減少した理由は何ですか？ それぞれのクラブはほぼ同じ問題との認識ですか？
3. 入会者が少ない事、退会者が後を絶たないことにはどのような理由がありますか？入会促進、会員維持の施策は何でしょうか？
4. 新会員セミナー(研修)はクラブ内で行われていますか？主催者側(クラブ役員)からは、どんな方が参加されていますか？
5. 新会員に、積極的に委員会活動への参加を呼びかけていますか？例会の席順、同好会への参加はどうでしょうか？
6. 新会員勧誘は、会員全員の課題となっていますか？増強委員会の仕事となっていますか？どんな工夫がなされていますか？
7. 新会員候補者の発掘方法について伺います。どんな方法がなされていますか？クラブの例会に新会員候補者を招待していますか？

(注) このセッションを行うために、RI 全体、日本全体と地区のロータリー会員数の推移、比較データを用意、会員減少の現状を理解していただく事が、より効果的と考えます。

RLI Part I セッション4 「ロータリー財団（基礎編）」

(ロータリー財団の基礎認識)

「本セッションの目的」

ロータリー財団は「難しい」「分かりにくい」と言った声が多く、また寄付を集めることばかりが先行し、本当の財団の姿を理解している人が少ないのが現状です。このRLIに参加された方に、「どうしてロータリー財団は必要なのか?」「なぜロータリー財団は重要なのか?」をまず理解していただき、ロータリー財団に対する関心と理解を深めていただくことを目的とします。

「主な質問事項」

1. もしロータリー財団が無かったら、世界は、ロータリーは今どうなっていると思いますか?
→ロータリー財団が無い世界を想像してみると、「ポリオがまだ蔓延しているだろう」とか、「世界社会奉仕のプロジェクトがほとんど行われていなかっただろう」と言った意見がでてきます。ここで、ロータリーがどうしてロータリー財団を作ったかを検討します。
2. あなたのクラブで行ったことのあるロータリー財団のプログラムを教えてください。また、あなたはロータリー財団にどのようなプログラムがあるかご存知ですか?知っているものを教えてください。
→自分のクラブで行ったプロジェクトでも、担当者でなければ、その内容はほとんど知らないのが実態です。ロータリー財団のプログラムを知ることによって、逆に自分のクラブでも使えるプログラムがあることを把握していただきます。
3. あなたのクラブにカンボジアから井戸掘りのプロジェクトへの協力依頼が来ました。プロジェクトの総額は15,000ドルです。あなたのクラブでは、協議の上、このプロジェクトに協力することに決まりました。そして、あなたはクラブからこのプロジェクトの担当者になることを依頼されました。この場合、あなたはどうしますか?
→具体的な例をあげて、もし自分がその立場になったらどうするかを考えていただきます。経験によって差はありますが、ほとんどの方は何から手をつけたら良いか、分からないと思います。このようなケースで具体的に進めるヒントを与え、自分でも可能にすることができることを感じていただきます。

「セッションのまとめ」

ロータリー財団の必要性、重要性をセッションの中で感じていただくことができれば、次のセッションに対する気持ちの持ちようが変わります。ロータリー財団の場合、まず、このことを理解し、感じていただかなければ、いくらシステムを勉強しても、上辺だけのものになってしまいます。世界中にはたくさんの救いを求める人たちがいるからこそ、ロータリー財団は必要であるということを、心に叩き込んでいただくことが、Part Iでの最重要課題であると思います。

RLI Part I セッション5 「米山記念奨学事業」

(米山記念奨学事業の基本と事業の意義)

「本セッションの目的」

ロータリー米山記念奨学事業は、日本で学ぶ外国人留学生を支援する国際奨学事業プログラムです。1952年にスタートしましたが、1967年、現文部科学省を主務官庁とする「財団法人ロータリー米山記念奨学会」が設立されました。全国のロータリアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給する、世界で類を見ない日本独自の、「多地区合同奉仕活動」です。このセッションでは、奨学制度の基本、及びこの事業の意義を中心に、事業全体の概要を学ぶ基礎編です。

「主な質問事項」

1. ロータリーには外国人学生に対する支援プログラムが幾つかあります。どのようなプログラムがあるのでしょうか？ 対象となる学生はどのような学生ですか？そのプログラムの提唱者は誰でしょうか？
2. 年間の奨学生採用数は凡そ800人、事業費は14.3億円(2007年度決算)、国内では民間最大の奨学事業です。ご存知でしたか？ 支援学生数は累計で14,500人(2008年4月現在)。米山記念奨学生と接したことがありますか？
3. この「事業の意義」について伺います。どんな意義があるのでしょうか？直接には出身国と日本、大きくは国際社会でしょう。これらの意義について意見を伺います。では、ロータリー、ロータリアンにとってはどうでしょうか？ 何処でですか？
4. 奨学金の原資は日本の34地区のロータリアン、クラブ外の米山学友などの篤志家の寄付金で全て賄われています。この寄付金について、どのようなお考えをお持ちでしょうか。
5. 更に、この事業を拡大、発展させるにはどうしたら良いでしょうか？
6. この意義有る奨学事業を充分知っていましたか？ どうしたらロータリアンにもっと理解を深めて頂く事が出来るでしょうか？ 広報活動についてどう考えますか？

(注) このセッションは「基礎編」です。寄付に対する表彰制度、寄付金に対する税制上の優遇措置、寄付金の実態と経過、学生数などについては、次のセッション(応用編)で討議を予定していますので、ご承知下さい。

RLI Part1 セッション6 「ロータリーの効果的奉仕プロジェクト」

「本セッションの目的」

ロータリーは奉仕を標榜する団体であり、専門職務および地域社会のリーダーである会員が有意義な奉仕プロジェクトに取り組んでいます。ロータリーには「四大奉仕部門」があり、これらは、クラブが効果的に機能するクラブ奉仕、ロータリアンがそれぞれの職業を通じて他の人々に奉仕する職業奉仕、それぞれの地域社会への社会奉仕、更には、人道的援助活動を中心とした国際奉仕などです。ロータリー活動は世界的なネットワークで展開されており、このセッションでは、効果的奉仕プロジェクトとは何か・・・を学ぶことを目的に討議します。

「主な質問事項」

1. 先ず、基本的な問題です。ロータリーで言う「効果的な奉仕」、更には「効果的な奉仕プロジェクト」とは何でしょうか？
2. 奉仕活動は現実的な問題（課題）に応えることが肝要と考えます。もし、あなたがクラブの新しい奉仕プロジェクトになった場合、最初に何をしますか？ 地域社会のニーズをどう把握しますか？
3. プロジェクトに必要なリソース（人材、資源）を把握した上で実施が可能となります。必要な資金をどう調達しますか？ クラブ会員、地域社会の支援は？
4. 資金調達に関連した問題について伺います。純粋な資金調達と社会奉仕プロジェクトの差異化、独創性は必要でしょうか？ 必要資金の調達リスクは？財団補助金などの活用、他クラブ、地域団体などとの協力は？
5. 奉仕の恩恵を受ける人々の技能、知識を取り込んだプロジェクトが望ましいと考えます。全ての参加者の貢献が重要、且つ必要となっていますか？
6. 広報活動はどのように行いますか？
7. プロジェクトの成果を評価、測定するシステムが考えられていますか？
8. プロジェクト継続の必要性について検証する事が考えられていますか？